

仙台市の研究のまとめ
「生活で活用できる力」の育成を目指して
～「つながり」を生かす段階の工夫～

仙台市教育研究会技術・家庭科部会
 研究部長

仙台市立東華中学校 教諭 佐々木 直樹
 仙台市立中田中学校 教諭 工藤 京子

1 はじめに

技術・家庭科研究会では、平成26年度より「つながり学習」を意識した授業づくりを中心に研究を推進してきた。本年度は、その三年目となる。第一段階「気付く段階」、第二段階「考え、学ぶ段階」、第三段階「生かす段階」の三つの段階を踏んだ学習を「つながり学習」とし、本年度は第三段階「生かす段階」に焦点を当て、どのような指導の工夫が考えられるのかを仙台市の研究とした。

内容ごとに収集した事例を、以下三点について検討した（第二回定例会）。

- ・学習指導要領のどの部分に該当するのか。
- ・「つながり学習」のどの段階に該当するのか。
- ・「つながり学習」の「生かす段階」の事例として、収集したもの以外に、どのような事例が考えられるのか。

図1の表にしてまとめた。

2 研究のねらい

「生活で活用できる力」を育てるためにはどのような支援や指導の工夫が考えられるのか、「つながり学習」の「生かす段階」を通して検証する。

(3) 「つながり学習」の「生かす段階」に関わる授業研究の実施

技術分野は、内容Bで、仙台市立南吉成中学校 太田正博教諭の授業研究を実施した。家庭分野は、内容Bで、仙台市立高砂中学校 玉橋遥教諭の授業研究を実施した（第三回定例会）。

3 研究の内容

(1) 「つながり学習」の「生かす段階」を取り扱った事例収集

仙台市会員にアンケート形式で、事例を収集した(5月)。

① 「技術分野 最適な照明器具の選択」

エネルギー変換の技術として、照明器具を取り上げ、技術と社会や環境との関わりについて考えさせる内容であった。照明器具の技術的な特徴に気付き、生活の中でどのようにその特徴を生かして活用できるのか。生徒の自宅の照明器具にどの種類を選択するのかを技術的な知識をもとに考えさせた。

(2) 「つながり学習」の「生かす段階」の事例検討とまとめ

技術 内容B

つながり学習段階	学習指導要領	題材名	主な内容	「生かす」の見取り場面・方法
「気づく」	B-(1)ア	エネルギーの変換と利用	電気エネルギーをどのように変換して利用しているのかを理解し、具体的にどんな製品があるのかを考える。	授業での発言
「考え・学ぶ」→「生かす」	B-(1)アイ	チェーンによる伝動機械の保守点検	自転車のチェーンによる伝動の仕組みを確認させ、エネルギーを有効に利用するために、潤滑油が必要なことを学ばせる。その際、自転車の保守点検のやり方を実習し、自宅の自転車でも点検させ、報告させる。	学習プリント 自転車点検チェック表



②「家庭分野 自分のために作る朝食と食品の選択」

これまで学んできた食品の選択に関わる知識を生かして、食べる人や作る人の立場を考えた食品の選択と献立を考えさせる内容の授業であった。

「つながり学習」の「生かす段階」として、「①日常多く用いられている食品を、外観や表示などから見分けることができ、用途に応じ選択ができる。」「②食品の選択において、栄養、調理の能率、環境への影響などの諸条件を考えて選択し調理につなげられる。」と考えた。



4 研究のまとめ

(1) 「つながり学習」の「生かす段階」を取り扱った事例収集と、その検討とまとめ

実践例としては、家庭等での実践や活用・調査、テクノロジーのメリットとデメリットの検討、実習体験での活用、他教科での活用、関連施設への訪問などが挙げられた。

評価のための見取り場面・方法としては、レポートの提出、家族からのコメント、定期テストの答案用紙、調査報告書の提出、家庭等での製作品

の提出、学習プリントの提出、実習活動での観察、まとめ発表などが挙げられた。

成果としては、「生活で活用できる力」を育てるための支援や指導の工夫、評価方法を整理することができ、今後の更なる工夫を考える下地を作ることができた。

課題としては、学習指導要領との整合性がいまいちな部分もみられ、今後更に検証する必要がある。

(2) 授業研究の実施

技術分野

成果としては、生徒に「生活で活用」する方法を考えさせることで、照明器具の技術的評価を多面的に考えることができ、生活で活用できる力の育成につながったと考えられる。一方で、照明器具の選択は、消費者教育となってしまう、テクノロジーを教えるという立場から外れてしまうのではないかという指摘もあった。学習指導要領における「生活で活用する力」の位置付けを明確にした上で授業づくりをしていくことが必要である。

家庭分野

成果としては、これまで学んだ知識を生かし「自分のための食品の選択」をする授業を展開することができた。そのための手立てとして、実物やカラー写真を用意し食品の選択をさせたことは、生活の中で食品の選択をする機会が少ない中学生にとっては非常に有効であったと考える。

課題としては、「産地や添加物の安全性などの客観的で正確な情報の提示や、生徒の家庭環境ごとの配慮が必要になってくること。」「話し合い活動の場面と、個人で考える場面をどのように設定したら効果的なのか。」などが挙げられた。